

先程、無事に本校 令和元年度 卒業証書授与式を終えました。

卒業生たちは、困難な状況の中、前日わずか一日の練習ではありましたが、本日、立派に立ち振る舞い、別れを語り、そして歌にその想いをのせてくれました。

本来ならば、ご来賓の方々、ご家族の方々とともに、晴れの門出を祝って頂くべきところではございましたが、今年度は、感染症対策の為、ご遠慮頂く次第となりました。ご理解ご協力頂きました皆様に、重ねて御礼申し上げます。

なお、式中、「お祝いの言葉」として式辞を送りました。ご報告とお礼に代えまして、以下に文面を掲載させていただきます。（今年度に限り掲載致します）
今後ともよろしくお願い申し上げます。

令和二年三月十七日

富田林市立喜志小学校長

塩野 義和

令和元年度 卒業証書授与式 励ましの言葉

『鶯の 声旅立ちに 華を添え』

現在の社会状況の中にあつて、保護者の皆様を始め、地域の方々、本市並びに本市教育委員会、多くの関係者の皆様のご尽力により、本日ここに、本校 令和元年度 卒業証書授与式を挙行できますことは、何よりも嬉しく、またありがたい事と存じております。

高い所からではございますが、まず以って、御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、卒業生の皆さん 卒業おめでとう！

先ほど、皆さん方、一人一人に卒業証書をお渡しする事ができました。その卒業証書は、皆さんが六年間、一生懸命努力し、小学校のすべての課程を修了したことの証しであります。

しかしながら、この六年間、自分の力だけで小学校

に通えたのではないということも、忘れないで欲しいと思います。

自分を、今日まで育ててくれた保護者の方々をはじめ、家族の人々、また、お互いに切磋琢磨、助け合い、支え合って生活してきた多くの仲間、優しく丁寧に、時には厳しく指導して下さった先生方、そして、いつも温かい声とともに、登下校を見まもっていただいた「地域みまもり隊」の方々をはじめ、喜志小校区にお住まいのすべての方々、このように多くの人々に助けられ、導かれて、ここまで歩んでくることができたのです。

「自分という人間は、自分一人の力だけで生きて来られたのではない。」

このことをあらためて皆さんとともに、確認したいと思います。

今年度、1学期の始業式の後、そのままこの体育館に残ってもらった皆さんに、私はお伝えしました。

「いよいよ6年生になりました。6年生は、喜志小学校の『顔』であります。そして、6年生は、ふるさと喜志の『顔』でもあります。自信と自覚と責任を持って、この1年を過ごしましょう。」

ここで、1年間の様々な取り組み、様々な出来事の中で、私が特に印象に残った『顔』を紹介します。

まず1学期。

始まった早々に、地域の多くの方から「明らかに様子が変わった。」「挨拶をするようになった。」との声が寄せられた、登下校時の『顔』。運動会の閉会式で、表彰のために朝礼台前に並んだ人たちの、喜びと悔しさ両方の『顔』。

次に2学期。

連合運動会の閉会式で、「マナー賞は、喜志小学校です。」と発表された瞬間の、皆さんの歓喜の『顔』。

そして3学期。

学習参観そしてお別れ会と、2度のミュージカル発

表で、最後に挨拶を行なった時の、喜びと自信に満ちた『顔』。

最後に、例年とは少し違いがありますが、一生に一度の小学校の卒業式を、仲間と一緒に迎える事ができた、喜びと安堵と少し寂しさが入り混じった『顔』。

いろいろな『顔』を見ながら、私も、心から嬉しく、そして楽しく過ごさせてもらいました。生涯忘れる事のない1年間、ずっと心に残る6年生になりました。本当にありがとうございます。

後になりましたが、保護者の皆さま、お子様のご卒業誠にめでとうございます。今日の立派な姿を前に、感慨もひとしおの事とご推察申し上げます。また今日まで、本校教育活動に多大なるご理解ご協力を頂きました。あらためて御礼申し上げます。ありがとうございました。

なお、たいへん厚かましいお願いではございますが、今後とも本校ならびに本校教育活動にご支援ご協力を、

更には喜志小校区、ふるさと喜志の振興に向けてご理解ご尽力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

また、「今年の6年生は本当によくがんばった。ぜひとも見送ってやりたい。」という声があがる程で、例年の倍近い人数のご来賓のみなさまのご臨席予定でありました。後日、本日の様子を学校からご報告させていただきます。頂く予定ではございますが、皆さまからもよろしくお伝え頂ければ幸いです。

さあ、卒業生の皆さん。

いよいよ、4月からは中学生ですね。

健康には充分留意し、仲間とのつながり、そして、いよいよ、喜志地域の『顔』として、充実した生活を送ってくれることを願い、私からのお祝のことばいたします。

令和二年三月十七日

富田林市立喜志小学校長

塩野 義和